

講演会参加登録とは別にお申込みと参加費が必要です。
講演会の参加登録だけでは、ご参加いただけません。

第 365 回 塑性加工シンポジウム
「スマート工場実現に向けた DX の深化」
～センシング活用からシステム連携・サプライチェーン最適化へ～
<2026 年塑性加工春季講演会併設企画>

日 時：2026 年 3 月 18 日(水) 13:15～17:00
会 場：静岡大学 浜松キャンパス 総合研究棟 2 階 21 番教室
〔静岡県浜松市中央区城北 3-5-1〕 (アクセスマップ： <https://www.shizuoka.ac.jp/access/>)
交 通：JR 線「浜松駅」下車 北口バスターミナル 15,16 番のりばから「静岡大学」下車 (所要時間約 20 分)
主 催：日本塑性加工学会 (実行：企画委員会)
協 賛：日本機械学会, 日本鉄鋼協会, 自動車技術会, 日本金属学会, 日本材料学会, 軽金属学会, 精密工学会, 型技術協会,
日本金属プレス工業協会, 日本鍛圧機械工業会, 粉体工学会, 日本トライボロジー学会, 日本熱処理技術協会
趣 旨：本シンポジウムでは、引き続き「スマート工場に向けた DX」をテーマに、塑性加工分野が直面する課題とその解決の方向性を探求します。特に、センシング技術の高度活用と DX の実装を通じて、生産現場の自律化・効率化・品質保証をいかに実現するかに焦点を当てるとともに、スマート工場に近づくために欠かせないシステム連携、サプライチェーン全体での最適化といった観点も含めて議論を深めます。参加者の皆様にとって、本シンポジウムが最新の技術動向を学ぶだけでなく、実際の現場改善や次世代の工場像を描くための具体的なヒントとなることを期待しています。

プログラム：開会の辞 (13:15～13:25) 日本塑性加工学会企画委員長 石丸 詠一郎君
司会 ヤマナカゴーキン 牟礼 昌哉君

時 間	内 容	講 師
13:25～14:05	DX・AI・IoT が塑性加工にもたらすもの GX への取組や高付加価値ものづくりにはデジタル技術は有用なツールとして不可欠である。本講演では、DX・AI・IoT 化の効果や導入課題、日本の塑性加工製造現場における DX・AI・IoT 化の現状および DX 取組成功事例を紹介し、プロセス可視化や知能化技術を通じたスマート工場実現への展望について講演する。	東京都立大学 楊 明君
14:05～14:45	鉄鋼業におけるスマート工場実現に向けた取り組み 鉄鋼業では、人口減少や働き方改革の進展に伴い、品質・コスト・納期対応力を確保しつつ、より省力化されたスマートな製造体制の構築が求められている。本講演では、鉄鋼業、特に日本製鉄における AI・IoT・数理技術の活用事例について紹介する。	日本製鉄(株) 伊藤 邦春君
14:45～14:55	休 憩	
14:55～15:35	金型ヘルスケア支援システムを用いた鍛造金型の寿命管理 半導体ひずみセンサーを用いた計測結果と鍛造シミュレーション結果を融合したソフトセンシング技術を適用した開発された金型ヘルスケア支援システムについて紹介するとともに、鍛造金型の寿命向上および残存寿命予測に活用した事例を紹介する。	(株)ヤマナカゴーキン 金 秀英君
15:35～16:15	予防保全実現に向けた保全 DX の実践と展望～設備データ活用による自律化・効率化への道筋 製造業の現場では設備や技術の高度化が進む一方、品質を維持しながら業務効率化を図ることが大きな課題となっている。本講演では、その鍵の一つである予防保全に着目し、設備データ活用による保全 DX の実践と自律化・効率化への道筋を紹介する。	八千代ソリューションズ(株) 山口 修平君
16:15～16:40	総 合 討 論 司 会 (株)ヤマナカゴーキン 牟礼 昌哉君	
16:40～17:00	講師を含めた名刺交換会 (希望者)	

定 員：80 名 (定員になり次第締切ります。)

参加費：(消費税 10%込)

正会員・賛助会員 協賛学協会個人会員	学生会員	一般	会員外学生
12,000 円	6,000 円	18,000 円	9,000 円

申込方法：学会ホームページ(<http://www.jstp.or.jp>)【行事のご案内】のページよりお申し込みください。
参加券、請求書をお送りします。

注 意：受付は12:30からです。
講演中の撮影・録音は禁止します。
テキストはPDF配布の予定です。冊子による配布はいたしませんのでご注意ください。
最新の情報は、学会ホームページでお知らせします。